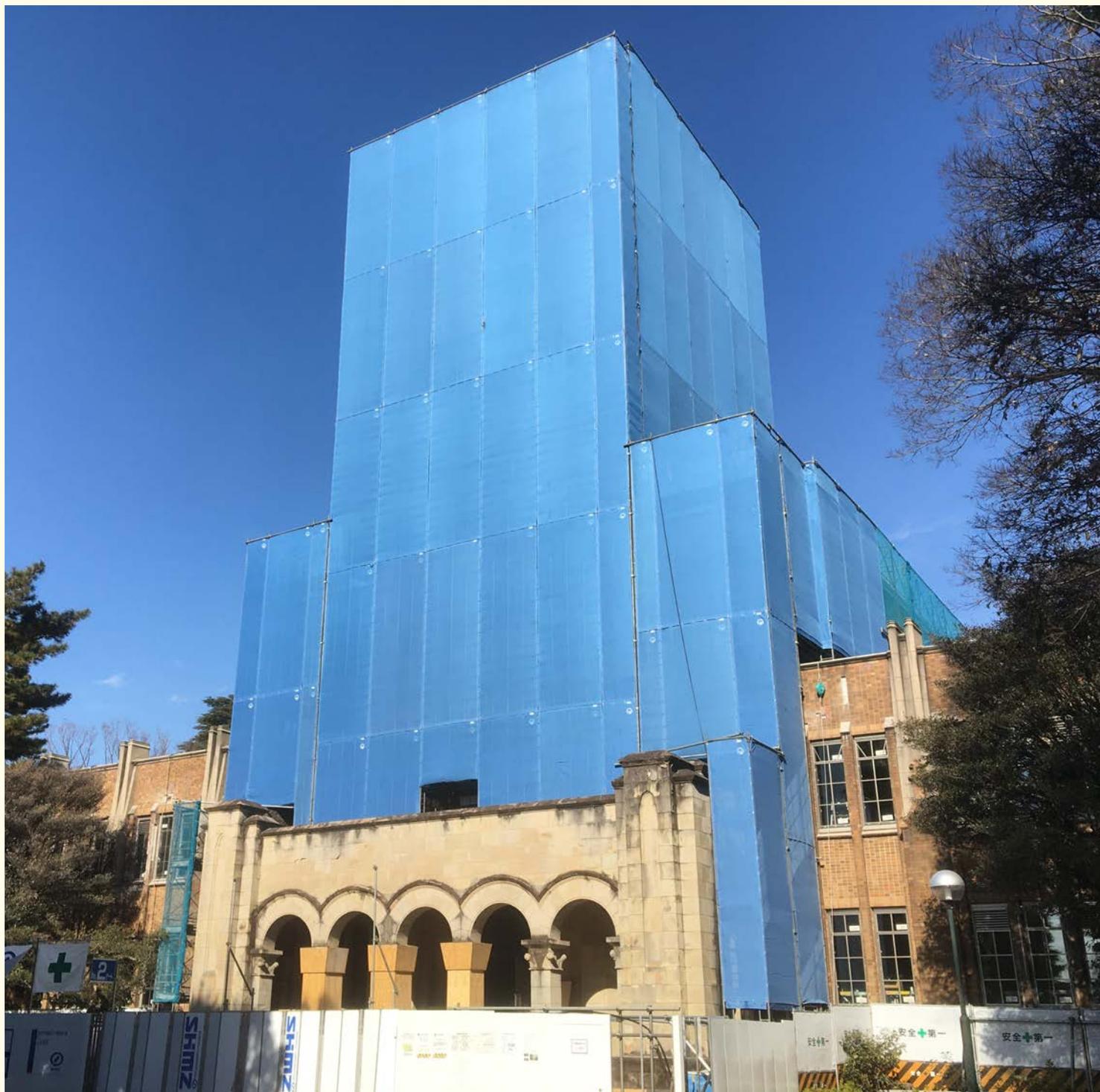


学内広報

2025.3.25

no.1592



改修中の駒場1号館（12月26日、撮影：田村 隆）



長年にわたりありがとうございました
令和6年度 **退職教員アルバム**
運営方針会議について総長に聞く
商品でたどる UTCCの20年

令和6年度

退職教員 アルバム

お疲れ様でした&ありがとうございました

年度末に退職する教員情報についてUTokyo Portalで提供を呼びかけ、所属部局から提出があったものから、皆さんのお写真を抽出してここに掲載します。長年にわたる研究・教育活動、大変お疲れ様でした。



先生方の詳しい情報はこちらから

法学政治学研究所
浅香吉幹教授

法学政治学研究所
荒木尚志教授

●在職期間に中断がある場合は※を付記しています。
●専門分野名は一部省略されている場合があります。

法学政治学研究所
飯田敬輔教授



国際政治経済論
平成19年4月～

法学政治学研究所
伊藤洋一教授



ヨーロッパ法
平成2年11月～

法学政治学研究所
大淵哲也教授



知的財産法
平成11年4月～

法学政治学研究所
川出良枝教授



西洋政治思想史
平成17年4月～

法学政治学研究所
松里公孝教授



旧ソ連諸国の政治
平成26年4月～

医学系研究所
相原一教授



緑内障・眼圧
平成27年3月～

医学系研究所
岩坪威教授



認知症学
平成8年8月～

医学系研究所
大江和彦教授



医療情報学
平成元年9月～

医学系研究所
大須賀 穰教授



産婦人科学
平成4年6月～

医学系研究所
岡崎 仁教授



輸血医学
平成25年6月～

医学系研究所
金生由紀子准教授



児童精神医学
平成18年1月～

医学系研究所
戸田達史教授



神経内科学
平成6年1月～※

医学系研究所
森豊隆志教授



臨床研究
平成24年4月～

工学系研究所
浅見泰司教授



都市住宅学
昭和62年5月～

工学系研究所
榎 学教授



信頼性材料工学
平成元年9月～

工学系研究所
各務茂夫教授



経・アントブレナージュ
平成14年9月～

工学系研究所
笠原直人教授



原子炉構造工学
平成20年4月～

工学系研究所
加藤隆史教授



機能性高分子
平成元年4月～

工学系研究所
佐久間一郎教授



医用工学
平成10年4月～

工学系研究所
鈴木英之教授



浮体構造システム工学
昭和62年4月～

工学系研究所
高木信一教授



半導体デバイス工学
平成15年10月～

工学系研究所
滝沢 智教授



都市水システム
平成4年10月～

工学系研究所
為ヶ井 強准教授



超伝導
昭和61年7月～

工学系研究所
中野義昭教授



半導体電子デバイス工学
昭和62年4月～

工学系研究所
丸山茂夫教授



ナノ熱工学
昭和63年4月～

工学系研究所
三谷 徹教授



ランドスケープ・デザイン
令和2年8月～

工学系研究所
茂木源人教授



社会戦略工学
昭和60年5月～

工学系研究所
李家賢一教授



航空宇宙工学
平成5年2月～

工学系研究所
塚本昌則教授



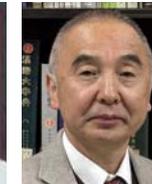
フランス語フランス文学
平成 9年4月～

人文社会系研究所
鉄野昌弘教授



上代文学
平成25年4月～

人文社会系研究所
袁翰顕量教授



日本仏教思想
平成22年4月～

理学系研究所
小形正男教授



物性物理学
昭和61年2月～

理学系研究所
角谷徹仁教授



遺伝学
平成27年10月～

理学系研究所
酒井広文教授



原子分子光物理学
平成11年10月～

理学系研究所
高木英典教授



物性物理学
昭和61年4月～

理学系研究所
田村元秀教授



系外惑星天文学
平成25年4月～

理学系研究所
三尾典克教授



レーザー応用・精密計測
昭和63年4月～

農学生命科学研究科
内田浩二教授



食品化学
平成28年9月～

農学生命科学研究科
久保田耕平教授



森林動物学
平成7年4月～

農学生命科学研究科
桑原正貴教授



畜産獣医学
昭和63年1月～



| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|--|---|---|
| 農学生命科学研究科 妹尾啓史 教授 | 農学生命科学研究科 高橋伸一郎 教授 | 農学生命科学研究科 露木 聡 教授 | 農学生命科学研究科 中嶋康博 教授 | 農学生命科学研究科 溝口 勝 教授 | 農学生命科学研究科 山田利博 教授 | 経済学研究科 神取道宏 教授 | 経済学研究科 久保川達也 教授 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
| 土壌学 平成14年4月～ | 分子内分泌学 平成2年11月～ | 国際森林環境学 昭和63年11月～ | 農業経済学 平成2年4月～ | 国際情報農学 平成11年4月～ | 樹病学 平成12年10月～ | ミクロ経済学 平成4年6月～ | 数理統計学 平成元年9月～ |
| 経済学研究科 谷本雅之 教授 | 経済学研究科 渡辺 努 教授 | 総合文化研究科 木宮正史 教授 | 総合文化研究科 後藤春美 教授 | 総合文化研究科 八田秀雄 教授 | 総合文化研究科 廣野喜幸 教授 | 総合文化研究科 深津 晋 教授 | 総合文化研究科 松村 剛 教授 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
| 日本経済史 平成9年10月～ | マクロ経済学 平成23年10月～ | 朝鮮半島地域研究 平成8年4月～ | 国際関係史 平成21年4月～ | 運動生理学 昭和63年4月～ | 科学史・科学論 平成10年4月～ | 半導体物性・応用量子物理 昭和62年4月～ | 中世フランス文献学 平成2年4月～ |
| 総合文化研究科 森 芳樹 教授 | 教育学研究科 岡田 猛 教授 | 教育学研究科 佐々木 司 教授 | 教育学研究科 牧野 篤 教授 | 薬学系研究科 大和田智彦 教授 | 薬学系研究科 三浦正幸 教授 | 新領域創成科学研究科 内丸 薫 教授 | 新領域創成科学研究科 大矢禎一 教授 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
| 理論言語学・意味論 平成21年4月～ | 心理学・認知科学 平成17年10月～ | 学校精神保健 平成11年5月～ | 社会教育学 平成20年4月～ | 薬化学 平成13年4月～ | 発生遺伝学 平成15年4月～ | 血液内科学 平成12年10月～ | 酵母遺伝学 昭和61年10月～ |
| 新領域創成科学研究科 小野 靖 教授 | 新領域創成科学研究科 高木 健 教授 | 新領域創成科学研究科 寺嶋和夫 教授 | 新領域創成科学研究科 山田弘司 教授 | 情報理工学系研究科 相澤清晴 教授 | 情報理工学系研究科 池井 寧 教授 | 情報学環 佐倉 統 教授 | 医科学研究所 三宅健介 教授 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
| プラズマ理工学 平成元年4月～ | 海洋技術政策学 平成20年8月～ | プラズマ材料科学 昭和60年4月～ | 核融合学 令和2年2月～ | マルチメディア情報処理 昭和63年4月～ | 多感覚インタフェース 令和2年4月～ | 科学技術社会論 平成12年4月～ | 免疫学 平成13年5月～ |
| 医科学研究所 四柳 宏 教授 | 地震研究所 小原 一成 教授 | 社会科学研究所 佐藤 香 教授 | 生産技術研究所 井上博之 教授 | 生産技術研究所 志村 努 教授 | 生産技術研究所 須田義大 教授 | 生産技術研究所 平川一彦 教授 | 史料編纂所 山家浩樹 教授 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
| 感染症内科学 平成16年11月～ | 地震波モニタリング 平成22年5月～ | 教育社会学 平成15年4月～ | 非晶質材料設計 平成元年10月～ | 応用非線形光学 昭和62年4月～ | 車両制御動力学 平成2年4月～ | 量子半導体エレクトロニクス 昭和62年4月～ | 日本中世史 昭和61年4月～ |
| 宇宙線研究所 大橋正健 教授 | 宇宙線研究所 籠田正人 教授 | 宇宙線研究所 中畑雅行 教授 | 物性研究所 長田俊人 教授 | 大気海洋研究所 安田一郎 教授 | 先端科学技術研究センター 玉井克哉 教授 | 先端科学技術研究センター 中村 尚 教授 | 素粒子物理国際研究センター 森 俊則 教授 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
| 重力波宇宙物理学 平成11年3月～ | 宇宙線物理学 平成13年2月～ | 天体素粒子物理学 昭和63年4月～ | 物性物理学 昭和63年5月～ | 海洋物理学 平成9年4月～ | 知的財産法 平成2年4月～ | 気候力学 平成4年12月～ | 素粒子物理学 昭和64年1月～ |

特定国立大学法人として設置した新しい合議体 運営方針会議 について総長に聞く

昨年10月に施行された国立大学法人法改正で、大規模な国立大学に設置が義務付けられた「運営方針会議」。東京大学では、昨年12月20日に14人のメンバーを公表し、1月30日には本郷キャンパスで第1回の会議が開催されました。この新しい合議体が担う役割や委員の人選などについて、藤井輝夫総長に聞きました。

長期的・国際的な視野で考える

——「運営方針会議」の役割について教えてください。

運営方針会議は、長期的、そしてグローバルな視点から大学運営について考えていく新しいガバナンスの形です。学内では昨年2月に運営方針会議検討タスクフォースを立ち上げ、東京大学憲章やUTokyo Compassを踏まえた議論を数か月にわたって行い、会議の在り方を検討してきました。運営方針会議の具体的な役割は、中期目標と中期計画、そして予算と決算に関する事項の決議、監督です。これまで役員会の議を経て総長が決定してきた事項です。総長に集約されていた権限の一部が運営方針会議に移るという意味では大きな変更です。今後は様々な方の意見を反映し、より良い活動を行っていけるようにしたいと考えています。

——委員は学内6人、学外7人。総長を含めると計14人です。人選にあたって重視したのはどんなことでしょうか？

多様な意見をいただくために、ジェンダーや専門分野、国籍などを考慮しました。学内からは経営企画、財務、ダイバーシティや国際を担当している理事3人と、教育研究評議会によって選出された3人の先生方が加わります。執行部以外の教員が含まれているということが東大の運営方針会議の大きな特徴です。学内の教育現場の意見を反映するためです。学外委員も同数にし、計14名と他大学に比べると大きな会議体になりました。

——学外委員の顔ぶれについてはいかがでしょうか？

東大の応援団としても期待

Dario Gilさんは、量子コンピューティングや半導体などの分野で本学とも連携をしてきた方。アメリカのNational Science Boardの議長などを務めた経験もあります。Peter Grussさんは世界の研究やそのマネジメントについても深い知見をお持ちです。そして、本学の産学協創・社会連絡協議会のアドバイザーを務めている武田洋子さん。卒業生で校友会顧問を務めている野田由美子さん。程近智さんは、私が総長に就任した時に立ち上げた財務経営本部のアドバイザーを務めていただきました。本田桂子さんは世界銀行関連機関の長官や国内企業の社外取締役などを務められた方。Geeta Mehtaさんも卒業生で、米国の東大友の会の理事です。学外委員の皆さんには東大の応援団になってもらいたいという期待もあります。今後展開していくファンディング、中長期的にはエンダウメント型経営などについても助言をいただきたいと考えています。

——今後の予定を教えてください。

会議は年4～5回開催する予定です。今回は3月21日。責任と権限を伴う形で、グローバルで長期的な視点から大学運営について考えてもらう合議体というのは、東大にとっても初めてのことです。まだ動き出したばかりですが、委員の皆さんに様々な意見を出してもらい、対話を繰り返しながら、東大が良い方向に向かっていくよう、一緒に考えていきたいと思っています。



第1回運営方針会議は1月30日に安田講堂大会議室で開催されました

- 国立大学法人法第二十一条の五
特定国立大学法人においては、次に掲げる事項の決定は、運営方針会議の決議によるものとする。
- 一 中期目標についての意見に関する事項
 - 二 中期計画の作成又は変更に関する事項
 - 三 準用通則法第三十八条第一項の規定により提出する財務諸表の作成に関する事項
 - 四 予算の作成に関する事項
 - 五 準用通則法第三十八条第二項の規定により添付する事業報告書及び決算報告書の作成に関する事項

東京大学運営方針会議構成員(令和7年1月1日時点)

| | |
|-------------|---|
| 藤井輝夫 | 総長 |
| 相原博昭 | 理事・副学長 |
| 菅野 暁 | 理事 |
| 林 香里 | 理事・副学長 |
| 後藤由季子 | 薬学系研究科教授・副研究科長 |
| 村本由紀子 | 人文社会系研究科教授 |
| 山本隆司 | 法学政治学研究科教授・研究科長 |
| Dario Gil | IBM Senior Vice President and Director of Research |
| Peter Gruss | 沖繩科学技術大学院大学 名誉学長 |
| 武田洋子 | 株式会社三菱総合研究所 執行役員(兼) 研究理事 |
| 野田由美子 | ヴェオリア・ジャパン合同会社 代表取締役会長 |
| 程 近智 | ベイヒルズ株式会社 代表取締役 |
| 本田桂子(議長) | コロンビア大学 Adjunct Professor and Adjunct Senior Research Scholar |
| Geeta Mehta | コロンビア大学 Adjunct Professor |



学外構成員に理解を深めてもらうため、藤井総長と佐藤健二執行役が本郷キャンパスを案内

(取材日：2月25日)

歴代の注目オリジナル商品でたどる

The University of Tokyo Communication Centerの20年

東京大学コミュニケーションセンター (UTCC) が20周年を迎えました。大学直営ならではの強みを活かし、研究成果を活用したアイテムや東大ゆかりのデザイン商品などの限定グッズを取り揃える公式ショップ。UTCCを代表する商品とともに20年の歩みをたどります。

「知性と品格とあふれる東大♥」が品揃えの魅力です
「東大ってどんなことをしてるの?」に答えるお店です

● UTCCの歩み

| | |
|----------|---|
| 2004年11月 | ホームカミング日に仮オープン |
| 2005年3月 | 本郷キャンパスに正式オープン |
| 2006年4月 | オンラインストアがオープン |
| 2013年3月 | 東京駅 KITTE 内の博物館・インターメディアテク (IMT) にIMTブティックがオープン |
| 2019年4月 | 本郷店をインフォメーション兼公式ショップとしてリニューアル |
| 2021年7月 | オンラインストアリニューアル |
| 2025年春 | 20周年キャンペーンを実施 |

UTCC店長・関根 祐
以前のロゴ。コンセプトは「知性の顔」



全てはここから始まった
第1号商品!

⇒ **御酒** 2004

沖縄戦で死滅したと思われていた戦前の黒麹菌(瑞泉菌)が分子細胞生物学研究所に真空保存されていたと判明し、復活した「幻の酒」。UTCCの歴史はこの泡盛から。



UTCCといえばアミノ酸
歴代売上1位!

⇒ **乾杯式®アミノ酸サプリメント** 2006



東大で進んだアミノ酸研究の成果が酒好きに好適な顆粒サプリメントに。体力式とあわせてUTCCの大黒柱でした(現在は廃番)。

オンラインショップの
売上1位!

⇒ **体力式®アミノ酸ゼリー** 2014

定期購入で愛飲してくださるお客様が多い商品。オンラインならまとめ買いで重たくなくても安心です。



1個10万5000円
最高額商品!

⇒ **D'Eggスピーカー**

特殊な塗布剤を振動板に用い、クリアで大迫力の音質を実現。本郷店で体感できます。



開発で担当者が最も
苦労した商品!

⇒ **博士の昔こうじ甘酒** 2020

試作の際、使う株によって味や色が様々で、匂いや臭いがしたり、真っ黒になったり…。常温保存の技術開発にも長い時間がかかったヒット商品。

知る人ぞ知る
通好みの商品!

⇒ **チタンタンブラー** 2020

生産技術研究所で研究が進むチタンの特性により飲み物の温度を長時間キープ。表面には黄葉した銀杏の間から青空が見えるイメージをデザイン。



公式の場にふさわしく、気分もあがるネクタイです!

サイズが
最大の商品!

⇒ **安田講堂柄スカーフ** 2019



創建時の手書き図面を用い、インクのにじみやスタンプのかすれまで再現したスカーフ。88×88cmの大判サイズです。

思い出の
廃番商品!

⇒ **光触媒シート** 2005



光触媒技術を用いた、太陽光で機能が戻る脱臭シート。先生の退任や工場の都合などが重なり、泣く泣く廃番に。



公式グッズ第1号!

⇒ **東京大学オフィシャルネクタイ** 2011
式典や学會から普段使いまで。高級ネクタイメーカーのオリジナルデザイン。剣先裏には大学のロゴが。総長も愛用中!

総長・藤井輝夫

名前が**最長の商品!**

⇒ **パールコラーゲン®薬用リンクルホワイトエッセンス UT** 2025

東大×御木本製薬の人気シリーズ。全25字の名を冠した抜改善のジェル美容液が4月から仲間入り。

企画が**ボツ**った商品!

⇒ **ゴルフボール**

企画開発中にコロナ禍に突入。消費者の購買行動やニーズが急激に変化して当初の販売戦略が機能しなくなり販売に至りませんでした。

特に学内での人気者
公費売上1位!

⇒ **越前塗丸小箱** 2023



越前塗の漆器の蓋に銀杏や赤門を箔押し。和の伝統工芸品は海外のお客様などへの贈答に最適です。

IMTブティックならではの
人気商品!

⇒ **極楽鳥展図録** 2024



美しい鳥をめぐる自然史とジュエリーの図録。IMTの10周年記念特別展として開催され、展示終了後も人気の品に。

サイズが
最小の商品!

⇒ **カフリンクス** 2019



銀杏印をデザインした袖口の装身具は直径18mm厚さ2.5mm。卒業年度と名前の刻印OKです。

● **20周年キャンペーンを実施中!**

UTCCでは、16の研究商品シリーズを中心に**年平均約1億円の売上**があります。本郷店では、学内施設やイベントの情報提供、広報媒体の配布も実施し、**社会と大学の窓口としても機能**しています。オープン当初から多くの学生が活躍し、現在は13名の学生アルバイトが在籍中。今後の新商品としては、**醸酵学研究室の成果を活かした**あごだし、ユーグレナサプリメントなどを仕込み中です。**20周年企画第1弾**として、本郷店で対象期間(～5月10日)の**3,200円以上のお買い上げレシート**提示で次の買物の際に**豪華景品が当たるハズレなし抽選**を6月に実施します。1等は**体力式ゼリー1年分**。この機会にぜひご来店ください!

*学内予算の手続きで店頭価格より安く購入できます。

*IMTブティックでは博物館グッズやUTCC商品を販売しています。



教養教育の現場から

第68回

リベラル・アーツの風

東京大学が全学をあげて推進してきたリベラル・アーツ教育。その実践を担う現場では、いま、次々に新しい取り組みが始まっています。この隔月連載のコラムでは、本学の構成員に知っておいてほしい教養教育の最前線の姿を、現場にいる推進者の皆さんへの取材でお届けします。

学生が専門家と考える世界遺産と「グローバル」

／全学自由研究ゼミナール「文化遺産のポリティクス」「グローバル人材」とは何か

国際連携部門
特任准教授

宮崎 彩



——世界遺産委員会の事務局にあたる機関で勤務されていたそうですね。

「2019年はユネスコ世界遺産センターで働き、2020年からはペルーとカンボジア事務所で文化関連事業を担当して各国政府の支援に努めました。KOMEXでは1・2年生向け国際機関プログラムを担当しています。国際社会とのつながりのなかでキャリアを積む選択肢を伝えるため、昨年度は二つの授業を行いました」

ビートルズは世界遺産になる？

「一つは「文化遺産のポリティクス」です。文化遺産の歴史、制度の概要、制度運用の問題点などを講義で紹介。特別講義として第8代ユネスコ事務局長を務めた松浦晃一郎さんをお招きし、ユネスコケニア事務所で文化担当官を務める長岡正哲さんにもオンラインで話してもらいました。そうしたインプットを踏まえ、学生が各々興味のあるテーマを深掘りして発表するという授業です」

「ある学生は「ビートルズは世界遺産になりうるか」を調べました。基本的に世界遺産は有形物が対象。音楽は無形なので対象外ですが、アルバムのジャケットになったアビー・ロードの横断歩道とか、

曲を録音したスタジオとか、関連する有形物だとなのか。世界遺産条約や無形文化遺産保護条約などを参照し、オリジナルとコピー、政治と音楽の関係をも踏まえた発表が印象的でした」

「そしてもう一つの授業は、「「グローバル人材」とは何か」でした。国際機関などで活躍する9人の皆さんによるオムニバス講義です。国際機関の人も皆悩みながら働いていることを伝えたくて、キャリアがまだ流動的な30～40代をお招きしました。例えば、人道支援の最前線にいた元国連職員の女性には、家族を優先して一度キャリアをストップしなければならなかった、というリアルな話をしていただきました。そうした話を学生のうちに聞くことが重要だと思います」

——「人材」って少し物質っぽいですが。「人材」より「シチズン」を使おうというのが学生たちの意見でした。英語以外の外国語力、学外での実務経験、ロールモデルと話す機会の提供、公的機関との連携など、授業を通して見えてきたポイントを学生たちが提言にまとめ、それをグローバル教育センターに提出しました」

「国連界限ではポストSDGsの議論が進んでおり、2030年以降は「文化」が一

つの柱かもしれません。来年度に向け、新たな開発目標で文化が果たす役割を考える授業を準備しています。文化の定義から議論が必要で、人の営みは全て文化ですが、それでは広すぎるかもしれない。少なくとも自分はこう考えるというものを導き出せるとよいのですが」

保護と非保護の違いとは？

「私の原点は7歳のとき住んでいたメキシコでテオティワカン遺跡に感動した体験です。白装束の人が集まって祈っていて、文化財が人の心に息づいているのいいなと思いました。一方で、近くには丘の下に埋まったままの遺跡もあり、両者の違いは何かという疑問が芽生えたんです。いまも追いかけているテーマです」

——国際研修も担当されていますね。「テーマは「戦争と文化」です。カンボジアでは内戦で多くの文化的要素が失われました。特産物の胡椒の苗木が絶滅に瀕した時期もありますが、一人の日本人の尽力で復活しました。戦争被害から復活を遂げた事例を現場で学生たちに見せたいと思います。以前現地に関わったNGOにいた、地雷の火薬成分を採知するネズミ(①)にもぜひ会わせたいですね」

「文化遺産のポリティクス」概要
(2024年度S semester)

- | | |
|---------|---------------|
| 第1回 | 文化遺産とは何か？ |
| 第2~3回 | 文化遺産保全の歴史 |
| 第4~6回 | 文化遺産保全の国際制度化 |
| 第7~9回 | 文化遺産をめぐる摩擦・課題 |
| 第10~13回 | 文化遺産保全のための対応策 |



- カンボジア赴任時、国際NGOのAPOPOにて。「実地に投入されるのは訓練で100%の的中率を残した子だけ。それ以外はこの子のようにデモなどに使われています」(宮崎)
- 特別講演に登壇した松浦晃一郎さん。
- 10月に北京で行われた文化財保存修復研究国際センター (ICCROM) のカンファレンスで話す宮崎先生。
- 古株の教職員ならピンとくる懐かしの130周年記念事業キャラクター公募入選作「Gustoff」。「実は私が学部生の頃に描いたんです！」(宮崎)

UTokyo 第32回 バリアフリー最前線!

障害がある職員のお仕事拜見⑦

小石川植物園
の巻



植物園の緑の下の力持ち

およそ16万㎡という広大な小石川植物園の清掃を担っているのは、2008年に発足した環境整備チーム。知的・精神障害のある職員6人とチームコーディネーター3人からなるチームです。

約4,000種類の植物が栽培されている植物園での作業は季節ごとに異なります。桜が開花する前の3、4月はソメイヨシノ林周辺の石や枯れ枝拾い。5、6月はウメの実の収穫、雑草が生い茂る夏には草取りや水やり。秋は落ち葉掃除や腐葉土に適した枯れ葉の収集。そして冬は、枯れ枝集めや鉢植え変え作業などを行います。これらに加えて、トイレや建物内の清掃といった通年作業も担っています。

「体力を使う仕事ですが、季節の移り変わりを味わえ、やりがいがあります」と話すのは入職8年目の牛島章雄さん。仕事内容は多岐にわたり、新しい作業が加わることもあるため、常にメモ帳を携帯しています。

チーム発足当初から続いている作業の一つが、ギンナン、ウメ、カリンなどの実の採集です。袋に入れ、毎年来園者に配布していると説明するのは入職12年目の結束勝弘さん。ギンナンは食べ応えがある大きいものを選んで拾い、ウメは地面に落ちると傷つてしまうため、竹棒などで軽く叩き、四隅を持ち上げたブルーシートの上に落とします。「ブルーシートが徐々に重くなってるので腕がづらいです」と3年目の関口晴人さん。常に身体を動かす仕事なので体力は必須。東大に来る前は事務職だった依田力さんは、体力作りのために週に1、2回ジムに通っているそうです。

7年目の堂園茂幸さんは、草刈り機で刈った草は、熊手を使って取り残さないよう念入りに集めていると話します。そして、入職4年目の青木美空さんが「ぜひ見てほしい」と話すのが、正門から本館まで続く幅の広い坂道。2～3時間かけて掃き掃除をした後の園路は整然としています。植物園に行った際には、植物や来園者が気持ちよく過ごせるように丁寧に手入れされた環境に注目してみてください。



左から：青木美空さん、関口晴人さん、堂園茂幸さん、依田力さん、結束勝弘さん、牛島章雄さん

#WeChange Now

第12回 ジェンダー・エクイティ推進オフィス通信

大学院生と妊娠・出産・育児を語る

2月27日に、国際女性デー（3月8日）を記念するイベントとして「大学院生時代のライフイベントをどう乗り越えたか—経験者に訊いてみよう」を学内限定で開催しました。イベントは2部構成で実施し、第1部と第2部を通して、約34名が参加しました。

第1部では、大学院生時代のライフイベント（主に妊娠・出産・子育てなど）の経験者による座談会をオンラインと対面のハイブリッドで実施しました。文系分野と理系分野の登壇者からそれぞれのライフイベントの経験を共有していただきました。パートナーとの協力体制の築き方や支援や制度の利用を含め、どのようにして育児と博士課程の両立を行ってきた（行っている）かについてお話しいただきました。また、大学院生だけではなく、指導教員にも登壇いただき、大学院生とライフイベントについて「子育てをすることもしないことも多様性。それぞれの経験を豊かさにして、研究ができたらいと思う」などの助言もありました。そして最後に、大学や地方自治体からも大学院生向けの妊娠・出産・子育ての支援・制度が少ないことが問題として共有されました。

第2部ではネットワーキングイベントが対面のみで実施しました。文系と理系で分かれ、穏やかな雰囲気の中で意見交換が行われました。育児中の博士課程学生が抱える困難として、経済的側面や精神的側面から生じるものがあり、それらを支援するためにはそのような制度があると良いのかなど様々な意見が出ました。イベントの詳細についてはこちらのウェブサイト <https://wechange.adm.u-tokyo.ac.jp/ja/news/811/> にもアップしています。



私自身も、博士課程在学中に妊娠・出産・育児を経験した身として、参加者の皆さんの経験や意見に共感する部分が多くありました。たまたま運が良かった人だけが研究と育児の両立を乗り越えられるのではなく、困難さや壁を可視化していくことで、制度を動かし、より多くの人が研究を続けられるような仕組みを考えていきたいと思っています。（特任研究員 安東明珠花）

ワタシのオシゴト 第226回

RELAY COLUMN

経済学研究科等
教務チーム学部担当・主任 **三村伊予**

経済へようこそ!



「こんにちは」学部担当窓口から愛を込めて

「ワタシのオシゴト」は、経済学部の時間割や履修案内の作成というカリキュラムに関連した業務と、学生証の発行や謝金など学生生活の諸手続きに関する業務を主に担当しています。経済の事務室は、総務、財務、研究協力、留学生担当、教務(学部担当と大学院担当)が広いワンフロアに一堂に会し、日々チームを超えた交流ができる風通しのよさが最大の魅力です。私は転換試験で職員の仲間入りをしましたが、初めての仕事は岡山県にある牛窓オリーブ園で、きこり(自称)としてオリーブ樹の剪定、栽培、管理をしていました。その後、転職して岡山大学の腸内細菌の研究室で実験業務をする傍ら、海外からの留学生の研究支援を行いました。そこで出会ったベトナムのフェ大学から留学していたティエンさんとの交流をきっかけに、学生支援の面白さに気がつき現職を志しました。毎日の業務は新しいことの勉強の繰り返しですが、一構成員として力を尽くして参りたいです。



岡山大学ベトナム
デイにてティエン
さんと

得意ワザ：体感で自分の血圧が高めか適正かわかる
自分の性格：愉快になるとワハハとかなりの大声で笑う
次回執筆者のご指名：前原里咲さん
次回執筆者との関係：UTONEワークショップ参加仲間
次回執筆者の紹介：意見を話しやすい、相槌上手!

専門知と地域をつなぐ架け橋に

Field Study **FS** レポート!

第36回

理科一類2年
教育学部3年

若海 翼
加登 智大

また訪れたいと思った田根

私たちは1年間滋賀県長浜市の田根地区で活動しました。テーマは「田根地区を訪れた大学生が継続して関わるための仕組み作り」でした。田根地区ではこれまで、様々な大学の学生がフィールドワークで訪れ、Discord*



11月に琵琶湖岸にそびえる賤ヶ岳に登りました

でコミュニティを形成する一方、田根との関わりが一時的であることが問題でした。そこで私たちは、一度田根を訪れた学生が、以降も中長期的に田根やそこに関わる人々との繋がりを維持し続けられる体制作りを目指しました。第1回現地活動は8月上旬に4日間で行い、学生や地域住民の方との交流、田根の散策をしました。現地に関わる学生の活動内容やその思いであったり、地域住民の方が現在の田根に感じる魅力や課題意識を、実際に会って調査しました。第2回現地活動は11月に3日間で行い、田根の魅力や課題をより深掘ることを目指しました。第3回現地活動では、これまでの活動を元に考えた施策を実行するために田根を訪問しました。2月下旬に3日間かけて「ホームカミングデー」を開催し、合計60名の方々が関わる大規模なイベントを成功させました。

3回の現地活動を通じ、私たちの活動を支えてくださった地域おこし協力隊の堀田雅史さんの人を惹きつける力を実感しました。田根に集まる大学生に慕われているだけでなく、地域の子供たちや親御さん、農業組合の方々にも信頼され、地域の繋がりのキーパーソンでした。他大学の学生に田根を訪れる理由を聞いても、一番最初に堀田さんの名前が出ることもありました。2月に訪れたビール工場の若い職人さんを、その場で私たちの活動報告会に誘ってしまった時には驚かされました。そんな堀田さんありきの施策ばかりが浮かんで葛藤することもあり、これからも田根地区に住み続



琵琶湖にある竹生島に、他大学の方へ行きました

けると聞いた時には非常に嬉しい気持ちになりました。今後は、田根で仲良くなった人や田根地区との再会、新たな出会いを楽しみに、私たち自身も継続的に関わる大学生になりたいと思っています。

*チャットアプリ

●メンバーはほかに三田空来(文二2年)、山崎花凜(文三2年)、友澤諒(法4年)

インタープリターズ・第211回 バイブル

総合文化研究科 客員教授
科学技術コミュニケーション部門

小松美彦

記憶と時空

2020年以降のコロナ禍において、私なりに思わぬ発見をさまざま体験してきた。その一つに記憶と時空をめぐるものがある。

コロナ襲来後の最初のセメスター（2020年春セメ）でのことである。授業はすべて初のオンライン方式となり、私が所属していた文学部では3週間の準備期間が置かれたが、PC関係が不得手な私には、緊急事態宣言下の生活と相俟って、かなり疲弊した末の開講となった。実際の授業による疲労もかなりの程度で、1ヶ月するとオンラインのことを考えただけで忌避感が生じるしまつであった。

そんな折、授業でものした余談や補足がどの授業で話か判らなくなることが起こった。当初は疲労困憊のせいかと思ったのだが、そうではないことがすぐに判った。すなわち、どの授業も同じ自室でPCモニターの画面だけを見つめて話しているため、授業ごとの空間的な違いがないのである。コロナ以前は、ことさら意識せずとも、大きさや構造などがそれぞれ異なる教室空間で、さらに学生たちの“顔”が教室ごとの彩りを与えた中で、私は授業を行い、授業内容の記憶はそうした空間とセットで形成されてきたのである。

同様の経験のある方は、少なからず存在するのではないだろうか。では、次はどうであろうか。

私は若い頃から週に何度かランニングを続けてきたが、走行中の記憶を確認したことはなかった。が、おそらく先の“発見体験”が契機となり、ある日ふと確認してみた。まず、その日のランニング全体ですれ違った人をただ思い出そうとしたところ、まったく思い出せない。そこで、どここの曲がり角や緩やかな上り坂など、場所ごとに想起すると、けっこう思い浮かぶのである。記憶が空間とセットになっている所以であろう。

ところが、である。ために、ランニングのスタート地点から走ったコース（住宅街や幹線道路の歩道）を脳裏で連続的に辿ってみると、驚いたことに、すれちがった人々が次々と浮かび上がるのである。回想の走りに従って、親子連れだとか、赤いキャップの女性ランナーだとか、記憶からは消えていたはずの人々が、“正確な場所”で立ち現れるのである。しかも、その多くは、私が近づくにつれて大きさを増し、鮮明になってくる。記憶とは、空間のみならず、時間（の流れ）とも関係しているものなのだろう。

読者の皆さんには以上のような経験はないだろうか。その後の私は、“発見体験”をもとに、哲学者ハイデガーの気になるところを読み返しながら、コミュニケーションと時空との関係を考えているしだいである。

ききんの「き」

寄付でつくる東大の未来

第65回

ディベロップメントオフィス
アソシエイト・ディレクター

二瓶仁志

東大が寄付を集める必要あるの？

「東大が寄付を集める必要あるの？」。ディベロップメントオフィスで資金調達の仕事をはじめてから、何度も受けた質問です。この問いはもっともだと思います。私自身も、以前は国立大学が寄付を必要としているとは思ってもいませんでした。特に東大となると、なおさらのこと。

ですが、昨年6月に国立大学協会の永田恭介会長（筑波大学長）が、国立大の財務は「もう限界」と表明。9月には東大が「教育学習環境の改善は『待ったなし』」として学費値上げを決定しました。その頃から徐々に国立大の窮状が知られ出した実感があります。

2004年に東大が法人化してから、21年間で運営費交付金は136億円減少しました。一方、物価・光熱費は急激に上昇。海外の大学に目を向ければ、賃金が大幅に上がっています。

逆風の中で東大は世界水準の研究・教育を行い、「世界の公共性に奉仕する大学」「世界の誰もが来くなる大学」であることを目指しています。その実現には、寄付などの独自財源を強化することが絶対に必要です。

さらに現状への理解を広めるため、立ち上げたページが「はじめての東大寄付」です。これまで、東大基金のウェブサイトでは、寄付を検討して下さる方へ向けた基本情報をまとめたものがありませんでした。「なぜ寄付が必要なの？」「寄付が何の役に立つの？」「どんな研究があるの？」「どんな人が寄付をしているの？」「謝意・記念品は？」「税制優遇措置は？」「お支払い方法は？」という7項目でできています。

その中に、財産的基礎となる基金の大きさを、海外の大学と比較したデータを掲載しています。東大が299億円、オックスフォード大が約1.2兆円、ハーバード大が約7.9兆円。東大と財務形態が近いといわれる、州立のUCバークレー校でさえ、約1.1兆円。私たちは大幅に遅れをとっています。

大学の財務は、私たちの研究・教育・仕事・生活に直結する問題です。そこでみなさんへお願いします。ぜひ一度「はじめての東大寄付」をご覧のうえ、みなさんの所属する部局サイトにもリンクを掲載していただけないでしょうか。力を合わせて、東大をよりよくしていきましょう。



「はじめての東大寄付」は↓こちらから↓



トピックス 全学ホームページの「UTokyo FOCUS」(Features, Articles) に掲載された情報の一覧と、そのいくつかをCLOSE UPとして紹介します。

| 掲載日 | 担当部署・部局 | タイトル (一部省略している場合があります) |
|-------|--------------------------|--|
| 2月6日 | 本部社会連携企画課 | 「スポーツと東京大学」イベント実施報告 |
| 2月6日 | 本部社会連携企画課 | 「スポーツと東京大学」サイドイベント実施報告 |
| 2月7日 | 本部広報課 | 令和6年度退職教員の最終講義3月開催分のお知らせ |
| 2月7日 | 本部広報課 | 令和6年度 退職教員の紹介 |
| 2月10日 | 本部広報課、本部国際戦略課 | 「デザイン」で未来を形作る 東京フォーラム2024開催 |
| 2月11日 | 広報室 | アミノ酸研究から生まれた柔らかい霜降り豚肉／「淡青」49号「UTokyo研究室発グッズ集(第2回)」 |
| 2月12日 | 国際教育推進課GLP担当 | グローバルリーダー育成プログラムGLP-GEFILの第8回修了式を開催 |
| 2月13日 | 公共政策大学院 | 公共政策大学院設立20周年記念シンポジウム「EBPMと政治」を開催 |
| 2月13日 | 産学協創推進本部 | 産学協創推進本部と(公財) Soilが2024年度ワークショップを開催 |
| 2月13日 | 本部広報課 | OpenAI社サム・アルトマンCEOとの対談イベントを開催ー36人の東大生と語る「AIの未来」ー |
| 2月17日 | 本部ダイバーシティ推進課 | 林香里理事・副学長の寄稿がNature World Viewに掲載 |
| 2月19日 | 産学協創推進本部 | 共助資本主義の実現に向けた大学連合(SOLVE!)に参画 |
| 2月25日 | 本部学生支援課 | ラクロス部女子が創部史上初関東学生ラクロスリーグ戦1部昇格! |
| 2月26日 | 空間情報科学研究センター、情報学環・学際情報学府 | 澁谷准教授がWDS ECR-NetworkのCo-chairに就任 |
| 2月28日 | 大学総合教育研究センター | 東京大学フューチャーファカルティプログラム第24期履修証授与式を開催 |
| 3月4日 | 本部学生支援課 | 馬術部が関東学生馬術争覇戦において戦後初の1部優勝! |
| 3月5日 | 法学政治学研究科・法学部 | 岩澤雄司名誉教授が国際司法裁判所(ICJ)所長に選出 |
| 3月5日 | 本部社会連携企画課 | 「東京大学スポーツコンパス」の公表について |
| 3月5日 | 本部人事企画課 | 「令和6年度東京大学卓越研究員(公募型)」6名を決定 |
| 3月10日 | 附属図書館 | UTokyo Open Science Portalを公開 |
| 3月10日 | 本部入試課 | 令和7年度前期日程試験及び外国学校卒業学生特別選考合格者発表 |
| 3月10日 | 本部入試課 | 2025年度外国学校卒業学生特別選考合格者の皆さんへ(手続のご案内) |



CLOSE UP UTokyo OCW の活用事例を公開しました

(大学総合教育研究センター)



蔣妍助教が聞き手を務めた石井先生のインタビュー動画(YouTube)はこちらから→



大学総合教育研究センターTL推進部門OPユニットUTokyo OCWチームでは、OCWの活用事例として、東アジア藝文書院(EAA)の石井剛院長のインタビュー・スタッフ座談会特別記事、インタビュー動画を公開しました。UTokyo OCWでは、東京大学で開講されている授業を無償で公開し、幅広い層の学びを支援しています。今回は、2020年から学術フロンティア講義「30年後の世界へ——」を公

開してきたEAAのコーディネーター、石井剛院長とOCWスタッフが、「授業を公開したきっかけや継続の理由」、「授業をOCW化することのメリット」、「コロナ禍でのオンライン授業の試行錯誤」、「これからの学びのあり方」など、5年間の連携について座談会形式で語りました。また動画のPart4では、OCWで授業を公開する利点が語られており、特に授業を運営する教職員にお勧めの内容となっています。

表紙について

今号の表紙写真は改修工事期間中の駒場1号館です。内田祥三と清水幸重の設計により、第一高等学校の本館として1933年に竣工したこの建物は、駒場キャンパスを代表する国の登録有形文化財。竣工から90年以上が経ち、内部も外部も老朽化が進んでいたため、2024年8月から大規模な改修工事が行われました。今回の工事で実施されたのは、防水改修、外部建具改修、外壁改修、内部改修など。防水の面では100箇所

以上もあった漏水部を補修し、外壁ではスクラッチタイルの剝落防止措置や高圧水洗浄などを実施。コロナ禍への対策で設置した換気設備が半分ほども塞いでいたという窓まわりの改修では、換気設備を移設するとともに、創建時にはあった中棧なかざんの復元も行われました。しばらく表紙のように青いネットで覆われていた1号館ですが、8ヶ月に及ぶ改修を終えて覆いが外れ、本来の風格と学修にふさわしい環境を取り戻しています。



昨年6月(左)と今年3月。窓の棧に違いあり。

令和7年度 学内広報 配布スケジュール

| | | | | | | | | | | | |
|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1593号 | 4月30日 | 1594号 | 5月30日 | 1595号 | 6月30日 | 1596号 | 7月31日 | 1597号 | 8月29日 | 1598号 | 9月30日 |
| 1599号 | 10月31日 | 1600号 | 11月28日 | 1601号 | 12月25日 | 1602号 | 1月30日 | 1603号 | 2月27日 | 1604号 | 3月31日 |





CLOSE UP GLP-GEFIL の第8回修了式を開催しました (国際教育推進課GLP担当)



38名の皆さん、修了おめでとうございます！ GLP-GEFILの修了生はこれで累計378名となりました。

後期課程の学部学生を対象とした選抜制のグローバルリーダー育成プログラムは、1月24日に第8回修了式を執り行い、新たに38名の修了生が誕生しました。修了式では、GLP-GEFIL実施委員長の福士謙介教授からの挨拶の後、グローバル教育センター長・副学長の矢口祐人教授より修了生一人ひとりに総長名での修了証が手渡され、矢口センター長からは引き続き式辞も頂きました。

当日は、本プログラムにご支援を頂いている7つの企業・団体様より10名の皆様にご参りいただき、三井住友銀行公務法人営業第一

部長の林孝敏様よりご祝辞を頂戴しました。修了生答辞では、アングジョアンナマリーさん(教養学部)と立花卓遠さん(工学部)が、GLPでの経験を振り返りながら、グローバルリーダーのあるべき姿を語りました。修了式後の懇親会は、ご支援を頂いているTazaki財団の事務局長代理・正木真理子様のご祝辞で始まり、2年以上に亘るプログラムで学びを深めた修了生同士、教員や支援企業、財団の皆様と修了生がリラックスしながら、時には熱心に歓談を繰り広げ、最後は皆、名残惜しそうな雰囲気の中で会は終了しました。



CLOSE UP 岩澤雄司名誉教授が国際司法裁判所の所長に (法学政治学研究科・法学部)



岩澤雄司名誉教授

3月3日、国際司法裁判所(ICJ)において裁判所長選挙が行われ、本学名誉教授の岩澤雄司ICJ裁判官が選出されました。国際司法裁判所長の日本からの選出は、小和田恒氏(2009~2012年)に続いて2人目です。国際司法裁判所は、国際法に基づく裁判で国家間の紛争を平和的に解決することを任務として1945年に設立されました。15名の独立・公平な裁判官により構成される国連の主要な司法機関であり、その判決や勧告的意見には高

い権威が認められています。岩澤名誉教授は、1996年4月から本学総合文化研究科助教授、1997年10月から同研究科教授、2005年10月から本学法学政治学研究科教授を務め、2018年6月に同裁判所裁判官に就任しました。これまで約7年間にわたり、ますます大きな役割を果たすようになってきている同裁判所で、裁判官としての職責を果たされてきました。同裁判所所長への選出は、同裁判官のこれまでの貢献への高い評価を示すものです。



CLOSE UP GraSPP 20周年記念シンポ「EBPM と政治」を開催 (公共政策大学院)



シンポジウムの様子



(左から) 谷口将紀副院長、浅野議員、河野議員、牧島議員、川口院長

1月20日、公共政策大学院(GraSPP)設立20周年記念シンポジウム「EBPMと政治」が伊藤謝恩ホールで開催されました。政治家、大使館関係者、官僚、民間企業関係者、学生など約400名が一堂に会し、エビデンスに基づく政策形成(EBPM)の意義を議論しました。

相原博昭理事の挨拶の後、川口大司院長が基調講演に登壇。GraSPPの20年を振り返り、政策形成におけるエビデンス活用の重要性や、公共政策大学院で行われているEBPM研究の事例を紹介しました。続いて河野太郎衆議院議員が登壇し、エビデンスに基づく政策形成の必要性を語りました。河野議員は、政策実

行において財源の慎重な検討が不可欠であることを強調し、具体例として小児医療費無料化政策の実態を挙げました。基調講演後のパネルディスカッションには、牧島かれん議員と浅野哲議員が加わり、EBPMを通じて政策形成をどう進めるかを議論。「103万円の壁」を例に、所得控除額の変更が国民に与える影響や、政策の効果を知るためのデータの収集と分析の重要性が話し合われ、閉会の挨拶は津田敦理事が行いました。GraSPPの20周年を祝うだけでなく、政策担当者、学界、民間企業関係者、学生が一体となって取り組むべき課題を共有する場となりました。



CLOSE UP ラクロス部女子が1部昇格! 馬術部は戦後初の1部優勝! (学生支援課)



入れ替え戦後のラクロス部女子と表彰式後の馬術部

11月2日、ラクロス部女子「Celeste」は、関東学生ラクロスリーグ戦1部・2部入れ替え戦にて勝利し、1部昇格を果たしました。1部昇格は創部以来初の快挙です。昨年の関東学生ラクロスリーグ戦2部Bブロックで優勝を果たし、成蹊大学との入れ替え戦に臨んだCeleste。2022年の入れ替え戦でも対戦し、その際は9-13で敗北した成蹊大学が相手でしたが、今回は9-4で見事に勝利しました。

また、2月7~9日にJRA馬事公苑で行われ

た関東学生馬術争覇戦では馬術部が戦後初の1部優勝を果たしました。馬術部は今年約70年ぶりに1部に昇格し、昇格後初の試合が今大会でした。自馬に乗る選手3名、貸与馬に乗る選手3名による半自馬半貸与馬戦。1回戦は4-2で専修大学に勝利を収め、減点数の差により1-2位決定戦に進出。2連覇中の東京農業大学との決定戦は、勝ち点3-3、減点数1024-1247となり、優勝を果たしました。

活躍が続く本学運動部にさらにご支援を!



知の探求者、未来への架け橋

「研究者って発明をする人でしょ？」と六歳の娘は言う。私が研究者という仕事を娘に説明しようとしたとき、どう説明していいものか思索を巡らせた。

研究者とは、新しい知を発見し、社会に貢献する発明を行い、教育を担う存在だ。しかし、それぞれの研究者がどこに重きを置くかによって、その姿は大きく異なって見えることがある。ある人は純粋に新しい知の探求に力を注ぎ、ある人は社会課題の解決を重視し、またある人は教育に情熱を持つ。この多様な側面は対立するものではなく、むしろ相互補完的な関係にある。

確かに、研究の本質は未知の領域を切り開くことにある。量子力学でいえば、当初は理論的な探求であったものが、のちに半導体技術や情報科学の発展に結びついた例もあるように、新たな知の発見は長期的に社会に貢献する可能性を秘めている。一方で、現代の研究者は、気候変動や医療、エネルギー問題といった喫緊の社会課題の解決に資する実践的研究に取り組むことが求められている。再生医療の進展やAI技術の応用は、純粋な探求心と社会的要請の両方が相まって実現した成果の一例だ。

また、研究室は教育の場でもある。そこには学生から社会人まで多様な人々が在籍し、研究を通じて学ぶ。研究室は基本的に、数年

でメンバーが入れ替わる場所であり、研究主宰者のみがいつまでもそこに残る。学生や若手研究者が成長し、それぞれの高みを目指して巣立っていくことこそが、研究室の本質であり、教育の本質でもあると感じる。

知の探求、社会貢献、教育——これらは独立したものではなく、むしろ重なり合い、補い合う関係にある。基礎研究の成果が応用研究を通じて社会に実装されることで、さらなる知的探求の可能性が広がる。

そのためには、産官学が連携し、基礎研究から生まれた知見が社会実装へと橋渡しされる形を確立することで、理論と応用が相互に発展していく好循環を生み出していくことが重要だ。政府の支援や大学の教育機関としての役割、産業界との協力が相互に作用し、新たな知識の創出と社会実装の橋渡しとなることが求められる。

研究者とは何か。その本質を表す言葉を考えると、「橋をかける人」なのかもしれない。知と知の間、理論と実践の間、教育と研究の間、過去と未来の間に橋をかける。それが研究者の使命であり、私が娘に伝えたい「研究者という仕事」なのである。

星野歩子

(先端科学技術研究センター)

